

## エコノミストの経済予想

田中 修

### はじめに

18日に1-9月期の主要経済指標が発表されるが、すでにエコノミストが様々な予想を立てている。本稿では、その代表的なものを紹介したい。

### 1. 上海証券報調査報告

上海証券報 2012年10月10日は、13の保険・銀行・証券等の内外金融機関のチーフエコノミスト、マクロ経済研究団体からヒアリングを行い、「チーフエコノミスト四半期マクロ経済情勢調査報告」を発表した。以下は、その概要である。

#### (1) 7-9月期主要経済指標（前年同期比）の予想値

指 標	平均値	最高値	最低値	1-6月期	基調判断
GDP 実質成長率	7.5%	7.7%	7.3%	7.8% (4-6月期 7.6%)	経済はなお下振れており、底這い状態
固定資産投資 (1-9月期)	20.2%	20.6%	19.8%	20.4%	なお小幅反落
社会消費品小売	13.58%	14.20%	13.20%	14.4%	引き続き下降
輸出	4.85%	9.0%	1.0%	9.2%	下降
輸入	3.07%	6.0%	-0.5%	6.7%	下降
貿易黒字	700億ドル			688.2億ドル	ある程度増加
CPI	2.22%	2.8%	1.9%	3.3%	引き続き下降
PPI	-2.9%	-1.7%	-3.5%	-0.6%	引き続き小幅下降
人民元貸出	1.86兆元	1.90兆元	1.74兆元	4.86兆元	やや上昇
M2 (9月末)	13.64%	13.80%	13.50%	13.6% (6月末)	国内流動性はまだ顕著な緩和傾向にない
工業付加価値	9.22%	10.00%	8.20%	10.5%	下降は止まらず
工業企業利潤	-2.90%	1.0%	-5.0%	-2.2%	なお下降

#### (2) 10-12月期の金融政策の予想

##### ① 預金・貸出基準金利

中央銀行は基準金利の水準を変更しない。

##### ② 預金準備率

0.5-1.0ポイント引き下げる。

## 2. その他エコノミストの予想

証券日報 2012 年 10 月 10 日、南方日報同日付は、数人のエコノミストの 7-9 月期 GDP 実質成長率予想を紹介している。

### (1) 興業銀行 魯政委チーフエコノミスト

7.4%と 0.2 ポイント低下し、連続 7 四半期反落する可能性がある。これは 2009 年 4-6 月期以来最低の伸び率である。

### (2) 交通銀行 連平チーフエコノミスト

現在の政策の主たる基調はなお「安定の中に前進を求める」ことであり、事前調整・微調整の程度は多少強まっても、過激に進めることはない。

7-9 月期の国内経済を見ると、4-6 月期の安定成長政策の効果がなお明らかでなく、市場は慎重な様子見の感情が濃厚であり、経済は低位に徘徊を続ける可能性がある。市場の短期のコンフィデンスはかなり弱いので、4-6 月期に始動した多くの安定成長政策の効果は年末までずれこむ。7-9 月期の成長率は 4-6 月期よりやや鈍化し、7.5%前後となる可能性がある。

内外需要が同歩調で鈍化していることが、依然として経済の勢いが弱い主たる原因である。米・日の景気はかなり弱く、金融緩和政策によりある程度安定化傾向にある。ユーロ圏諸国の経済は更に衰退しており、新興市場国は依然として内憂外患の峻厳な状況に直面している。疲弊した外部環境が中国の 7-9 月期の輸出の困難をもたらしている。投資方面では、市場のコンフィデンスがかなり弱く、資金要因の制約を受けており、政策実施のタイムラグがかなり長い。消費の伸びは基本的に安定を維持しており、最近の中秋節・国慶節と物価上昇率の反転上昇の影響によりやや持ち直している。

### (3) 中信証券

7-9 月期の成長率は小幅に反落する。工業の成長が引き続き反落しているため、これが明らかに GDP の成長の足をひっぱることになる。7-9 月期の成長率は 7.5%と予想する。

(10 月 11 日記)